

青空

～思春期教室 特別号～

令和6年10月9日発行
真岡市立大内中学校
保健室

9月20日(金)の6時間目に、2年生を対象に思春期教室が行われました。真岡市の保健師さん2名、助産師さん1名の3人の講師の先生から、妊娠や出産などについてのお話をいただきました。思春期教室は、真岡市内の中学2年生を対象に毎年行われています。



講話

大きく3つの内容についてのお話でした。

- ① 将来の出産に向けて
 - ・いのちのはじまりは、針の穴ほどの大きさ。
 - ・出産は、お母さんだけでなく、出てくる赤ちゃんも頑張っている。お父さんの応援も大事。
 - ・不妊症や流産など、無事に生まれてくること事態が奇跡的なこと。
 - ・生まれ月ごとの出産あるある
- ② 中学生の生活で大切にしてほしいこと
 - ・他の人と体の違いを比べず、自信をもつ。
 - ・無理なダイエットや飲酒やたばこなど体の成長を妨げることは控える。
 - ・自分の嫌いなところも見てくる時期だからこそ、生きているだけで百点満点。
- ③ ヤングケアラーと性感染症について



だっこ体験・妊婦体験

クラスの代表の4名に、妊娠7ヶ月頃を想定したおもりが付いたベストを着て過ごす『妊婦体験』をしてもらいました。また、少しの時間ではありましたが、多くの生徒が交代でだっこ体験をしました。



学年の先生からのエール

講話の最後に2年生の先生方から2年生に向けてお話をしてもらいました。先生方それぞれに色々なエピソードをお持ちです。



生徒の感想 一部抜粋

人間は、生まれてくる時から家族が一生懸命に育ててくれたことがわかった。もし、結婚して、子供ができたら、愛情を込めて育てたいと思います。

自分がお母さんのおなかの中でどう育ったかすごくわかったし、命の大切さがとてもわかった。赤ちゃんも生まれてくるために頑張っていることも知れた。

自分の親やその親が今までずっと自分の命を大切にしてきたから、命が受け継がれて自分が生まれてきたのだとわかりました。出産の時、親がどれだけ苦労して産んでくれたのか動画を見て感じることができました。



自分のいのちは自分で守ることを意識して生きていきたい。

人が生まれる瞬間を見たり、妊婦さんの重さを体験して、人の命が生まれてくるのは、命がけなのだと改めて実感しました。

こどもは必ず生み育てないといけないの？と思ったあなたへ



妊娠や出産のお話を聞いて、そう感じた人はあなただけではありません。この疑問に、ある泌尿器科の医師は、以下のように答えています。引用元：養護教諭が知っておきたい男子の性教育ガイド

確かに子どもの誕生は喜ばしいことですが、だからといって、望んでも、環境が整っていても、誰もが子どもを授かることができるわけではありません。

子どもを産むということは、命の設計図である遺伝子を次の世代へ引き渡すことでもあります。1人の子どもには親の遺伝子の半分が引き継がれ、2人の子どもがいれば、親1人分の遺伝子を残すことができます。

では、子どもがいなければどうなのでしょう。実は、兄弟姉妹が2人、また甥姪が4人、あるいはいとこが8人いれば、子どもがいなくても1人分の遺伝子が引き継がれるのです。親戚中を見渡せば、確実にあなたの遺伝子のいくらかを持っています。だから、子どもがいらないからといって、「遺伝子を残すことができなくて申し訳ない」と引け目を感じる必要もありません。

昔は、親戚が近所に暮らしていました。そのため、すれ違う人の中には遺伝子を共有している人がいるので、周りの人に親切をしておけば、結局自分の遺伝子を労るようになっていました。今では移動距離が広がり、近所の親戚は少なくなりましたが、それでも周りには遺伝子を共有している人、その人につながるのある人がいるかもしれません。情けは人の為ならず。人に親切にすることは自分の遺伝子のためでもあるのです。大切なのは生きる姿勢です。自分らしく、人に優しく生きていきましょう。